

## 論文審査の要旨及び審査委員

(2, 000字程度)

報告番号	甲 第 21 号		氏 名	岡崎 浩幸	
論文審査 審査委員	氏 名		職 名	氏 名	
	主 査 委 員	向井 伸治 今村 一之 松本 浩樹 堤 洋樹 東福寺幾夫		委 員	

わが国の国民の健康は、母子保健法、学校保健安全法、労働安全衛生法、高齢者の医療の確保に関する法律等の各世代で異なる官庁が所管する形で法律が定められている。これに従って、自治体、学校、医療機関、会社等の様々な機関、場所に健康情報が散在している。このような健康情報の管理方法では、必要とする情報の抽出、生涯にわたる継続的な活用が困難という問題を有している。

この問題の解決のために、生涯にわたり個人で異なるバイタル情報の適正値を把握し、起こりうる自身の身体への影響を予測し対処するために、PHR (Personal Health Records) を蓄積し、次いで、PHR への接触頻度を高め、健康に対する行動変容を起こさせるシステムが望まれている。

申請論文では、PHR として蓄積した健康情報への接触頻度を高めるために、各ライフステージで必要とされる機能を充足させるとともに、ライフステージごとに適切な使い勝手を供与する健康管理システムの研究を行う。生涯にわたる健康情報を管理するためには、「乳幼児期」「学童・思春期」「青年期」「壮年期」「高年期」それぞれのライフステージごとシステムの最適化が必要となる。本研究では、その第一歩として「乳幼児期」「壮年期」「高年期」を対象として研究を行っている。具体的には、ライフステージごとの最適化を目指す健康管理システムを運用し実証実験を行い、アンケートとヒアリングからシステムの機能と使い勝手について考察している。論文は、全8章から構成されており、その概要は以下の通りである。

- 1章：研究の背景と位置づけにおける本研究の目的、論文の構成を示している。
- 2章：基本となる健康管理システム、及び、ライフステージ毎の課題について整理している。
- 3章：高年期を対象としたシステムについて検討を行っている。
- 4章：乳幼児期を対象としたシステムについて検討を行っている。
- 5章：システムの利便性と安全性の向上を目的にICカードを用いた認証について検討している。
- 6章：応用研究として、前橋市の健康教室に合わせ集団保健指導システムについて検討している。
- 7章：二次利用として、蓄積されたバイタル情報を活用する救急搬送支援システムの試作について検討している。
- 8章：PHR として、出生から高齢に至るまで生涯にわたるバイタル情報の活用とその価値について考察し論文を総括している。

博士学位論文の予備審査においては、審査員から多様な意見や修正依頼があった。中でも論文のタイトルが包括的すぎるとの意見を反映してサブタイトルに「PHR 利活用のためのシステムの構築と効果」を追加した。また、論文全体の目的について、PHR の必要性、ライフステージ毎にPHR として蓄積した健康情報への接触頻度を高めることを目的とすることを明確化した。さらに、各ライフステージで必要とされる機能、使い勝手の整理を行い、それに応じたシステムの改善を行ったことが明確となるよう全体の見直しを行った。その他の意見、修正についても適切な修正が行われたものと判断する。これにより、本申請論文は、現代社会における健康問題の改善に大きく貢献できるものと考えられ、博士論文のテーマとして相応しいものといえる。

以上のような、博士学位論文の審査結果を踏まえ、申請者の本研究に関わる公表論文、また英語による国際会議の実績、口頭試問による最終試験の結果から総合的に評価し、博士学位論文として合格と判断する。